

2012年9月10日

野洲駅



野洲文化ホール 文化小劇場

第2回 野洲駅南口周辺整備構想検討委員会

野洲市政策調整部
企画調整課地域戦略室
(587-6141)

第1回検討委員会のまとめ

前提条件の確認

○現状把握

- ・対象区域…駅南口市有地を中心とした約35,000m²
- ・留意点…都市計画法関連、野洲市景観条例関連等
既存施設との関係、市立病院立地の可能性

○コンセプトの確認

- ・にぎわいと活力にあふれた地域
(第1次野洲市総合計画(改訂版・平成24年4月))
- ・成長する駅前
構成資源…人・モノ・財源・情報・時間・生活

第1回検討委員会の検討課題

○市民活動拠点としてふさわしいものは ○使い勝手の良い駅前とは

- ・高齢化・少子化が進んでいる現状や、野洲市が持つ地域性を踏まえ、市民の利便性が向上する整備が必要。
- ・市内の観光案内や企業の技術に触れ合えるスペースなど、市のアピールが駅前が必要。
- ・今回の整備構想の検討はまちづくりであることから、中長期的な視点で将来の駅周辺の土地利用を考えるべき。
- ・人とのつながりが重要で、持続的なイベントや活動が可能な空間が必要。多目的に利用できる空間にすることで、市内外、世代を超えた交流ができる。
- ・野洲駅は市の玄関口であることから、市の特徴を印象付けられ、近隣とは異なる個性のある駅前づくりが必要。



人が中心の中長期的な視点でのまちづくり



市民活動拠点施設を核とした特徴的な駅前整備

第2回検討委員会での検討課題

検討のポイント

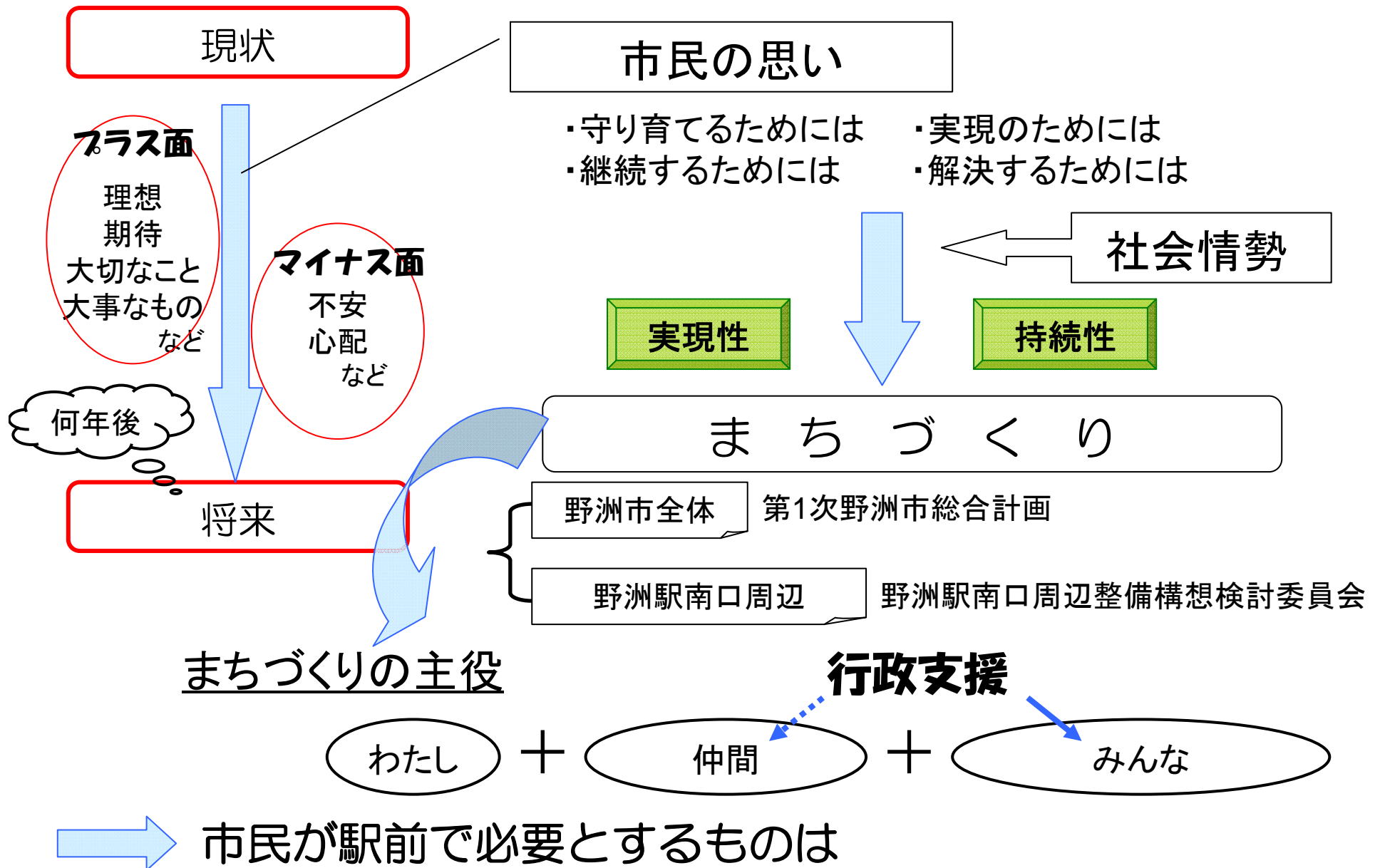
1. 人が中心の中長期的な視点でのまちづくり

- ・まちづくりのイメージ
- ・野洲市ってどんなまち
- ・市民の思いは
- ・野洲市を取り巻く社会情勢
- ・将来イメージの共有

2. 市民活動拠点施設を核とした特徴的な駅前整備

- ・ゾーニングイメージ

まちづくりのイメージ



野洲市ってどんなまち

野洲市商工業振興指針策定
(平成24年4月)における市民
への聞き取りから

野洲市の強み

「自然」や「歴史」に囲まれ、のんびりと落ち着き住みやすい。

野洲駅発着のJRがあることで利便性がある。

安全・安心の地元農産物を消費できる。

ICT関連企業の集積や、野洲市から世界へ発信している製品など、
先端技術のものづくりが盛んである。

野洲市の弱み

市の魅力をアピールする情報発信力や来訪者に対するおもてなし
体制が弱い。

市民活動をまちのにぎわいづくりに活かせていない。

魅力的な大型集客施設や全国展開している店舗がなく、市外へ
消費が流出している。

主要幹線道路や一般道路の整備が十分でない。

「強み」を活かし、「弱み」を克服する
ためのまちづくりのアイディアは



市民の思いは

家族、いのち、人とのつながり、
お金、自然、夢、平和 など

解決するためには

大事なもの、
大切なことは

心配なこと、
不安なことは

守るためには

健康、自然災害、平和、
環境、お金、仕事 など



こんなまちにしたい

南口周辺に求めることは

にぎわいのあるまち、子育てしやすいまち
うるおいのあるまち など

野洲市を取り巻く社会情勢

～ 第1次野洲市総合計画より抜粋 ～

(物理的な課題で避けられない状況)

少子・高齢化

人口減少社会において、子どもを生き育てられる環境整備や、生きがいをもって生活できるような取り組みが必要となっている。

(考え方や関心の変化による状況)

自然との共生

環境問題が顕在化している中で、持続可能で次世代に引き継ぐ取り組みが求められている。

地方の自立と協働

市民ニーズの多様化・高度化に対応するため、自治体だけでなく、地域とともに協働によるまちづくりが重要となっている。

安全・安心

全国各地での大規模な自然災害から日常生活に潜む危険などへの対策が求められている。

(社会の発展による構造変化の状況)

生活様式の多様化と変化

産業を取り巻く環境の変化

情報のネットワーク化

～ 直近の社会的な課題 ～

エネルギー政策

教育問題

近隣諸国との協調

経済の建て直し



複雑な社会情勢のなかで、持続可能な市民サービスの提供が必要

将来イメージの共有①

成長する駅前

将来イメージは？
5年後？10年後？30年後？

構成資源

人 モノ/財源 情報 時間 生活

概ねどの時点イメージするのか？その時野洲市は？

○第1次野洲市総合計画

- ・計画的な行政の運営を図る上での基本計画
- ・行政運営やまちづくりの**総合的な指針**

目標年次：平成32年(2020年)

無秩序なまちづくりはサービス
全体の低下の恐れや維持管理
コストの増大につながる



平成32年以降も市民の思いや社会情勢を踏まえ継続してまちづくりは進んでいく

将来イメージの共有②

▲資料(3~8)

人口推移(少子高齢化の流れ)(平成47年)

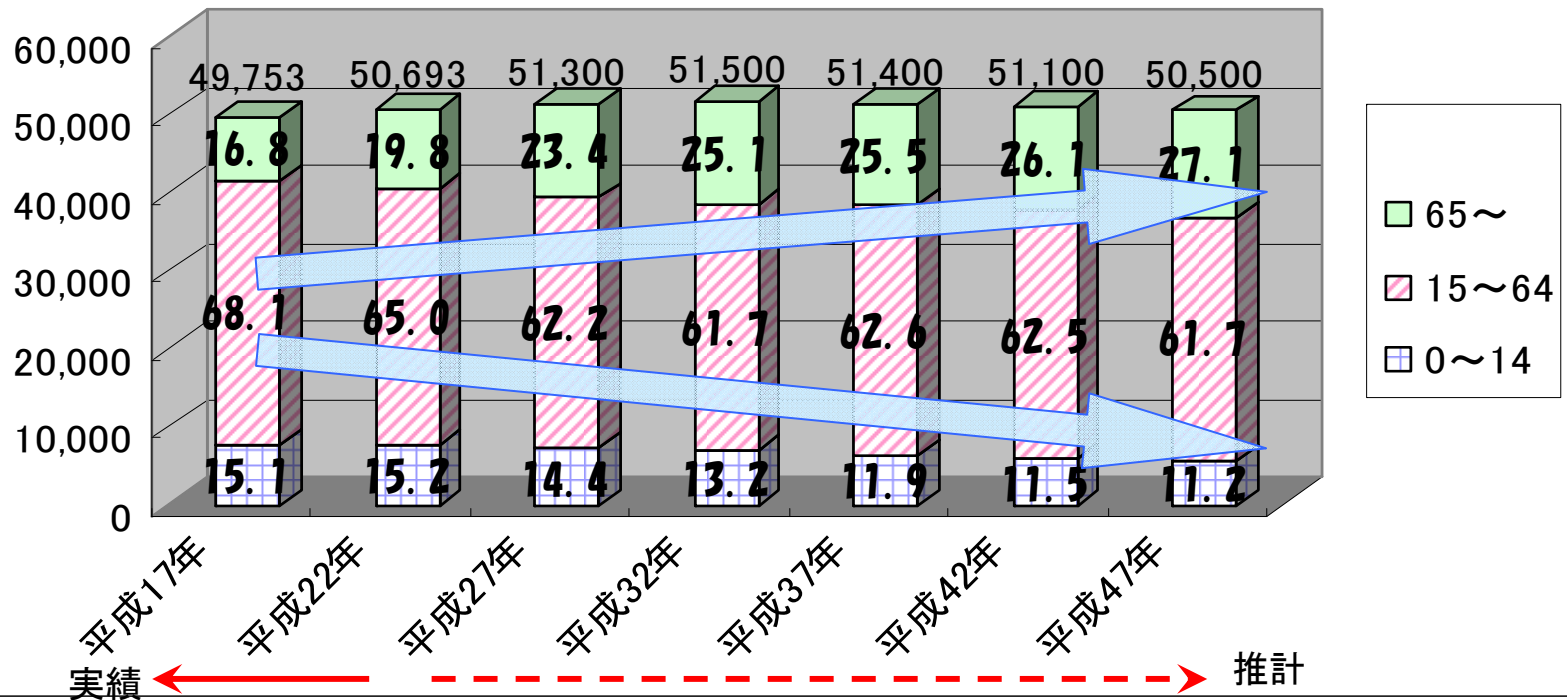
全国・滋賀県:国立社会保障・人口問題研究所による平成19年5月推計

野洲市:第1次総合計画改訂版(平成24年4月)策定時による推計方法に基づく人口推移

	全国	滋賀県	野洲市
総人口	110,679千人	1,341千人	50,500人
0~14歳	9.50%	10.90%	11.20%
15歳~64歳	56.80%	59.20%	61.70%
65歳~	33.70%	29.90%	27.10%

全国や滋賀県に比べゆるやかな傾向だが...

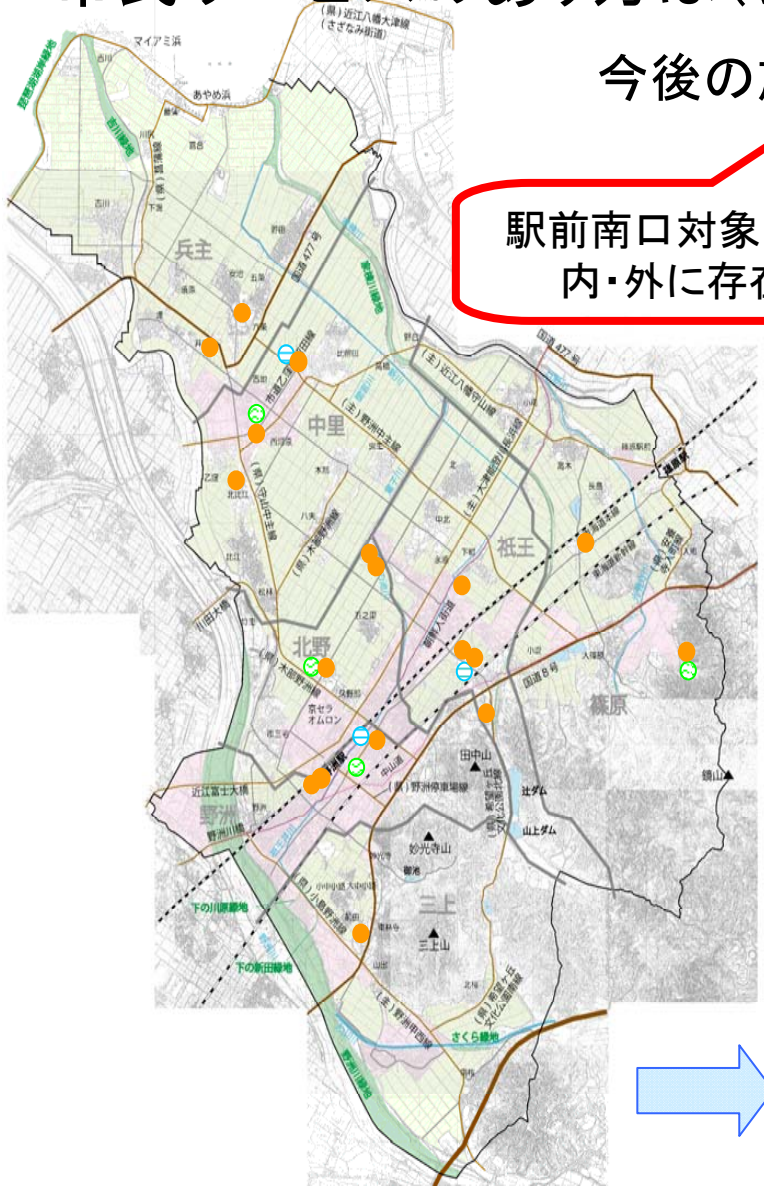
野洲市における人口推移(社会増減有)



将来イメージの共有③

市民サービスのあり方は(公共施設の状況)

▲資料(9, 10)



駅前南口対象区域
内・外に存在

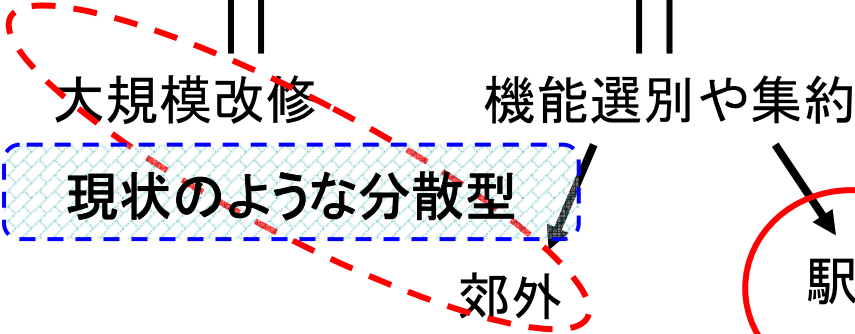
今後の施設のあり方を検討すべき公共施設

(建物の耐用年数経過や設備更新等)

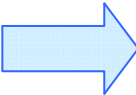
市民サービス維持の方法

現状維持

再構築



コンパクトシティ化



持続性のある市民サービスのあり方を選択する必要がある

市民活動拠点とは

市民活動拠点としてふさわしいものは

→ これまでの市民意見から想定される機能設定

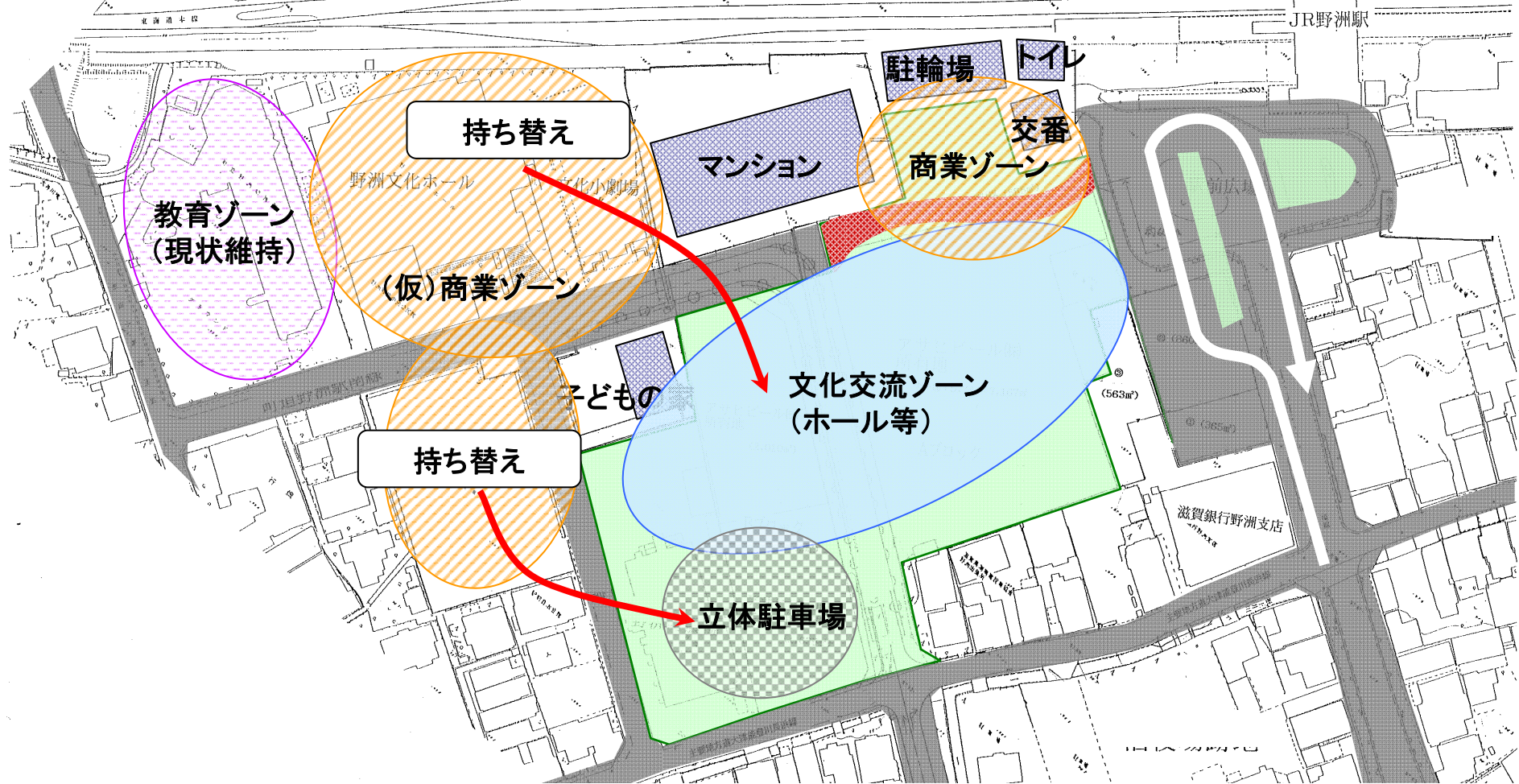
	文化交流機能	環境機能	商業機能	健康福祉機能
メイン機能	ホール コミュニティセンター 図書館分館	公園・緑地 駐車・駐輪場	ホテル レストラン 野洲市案内所(観光・物販等)	公立病院 子育て支援(託児)施設
サブ機能	景観機能		安全・安心機能	複合機能

- ①野洲駅南口周辺整備構想の核となる市民活動拠点における機能を仮設定
- ②文化交流、環境、健康福祉機能のそれぞれを核としたゾーニングイメージを作成
- ③商業機能は要望も多いことから全てのゾーニングイメージに採用

※商業機能は基本的に行政が直接関与することが困難であり民間参入となることから、対象区域内での積極的な取り組み、もしくは、周辺民有地へ期待するという選択肢がある。

ゾーニングイメージ①

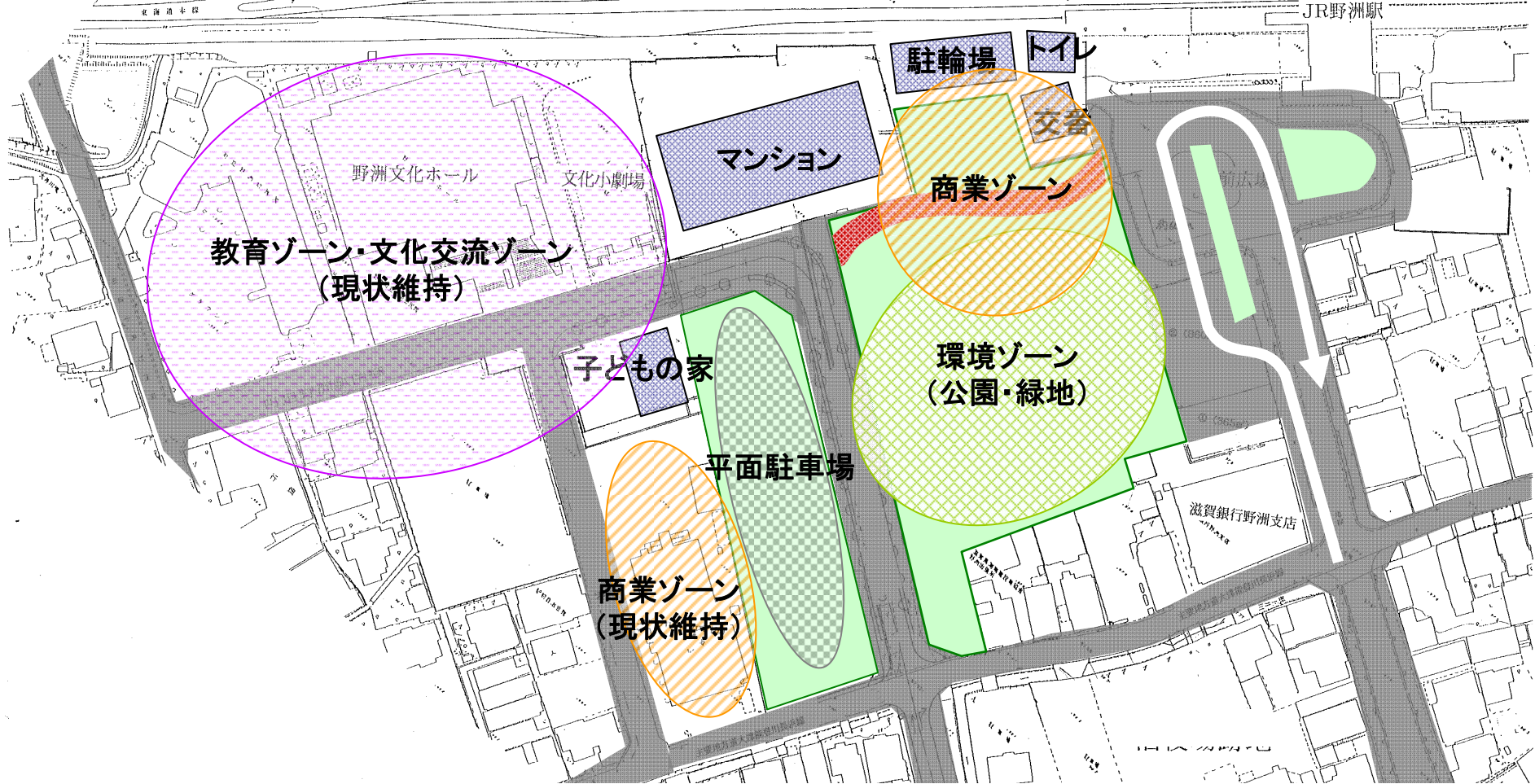
文化交流機能を核とした場合



※ゾーニングの提案ではなく、イメージをつかんでいただくために示したものです。
イメージ①～④の中から選択するものではありません。

ゾーニングイメージ②

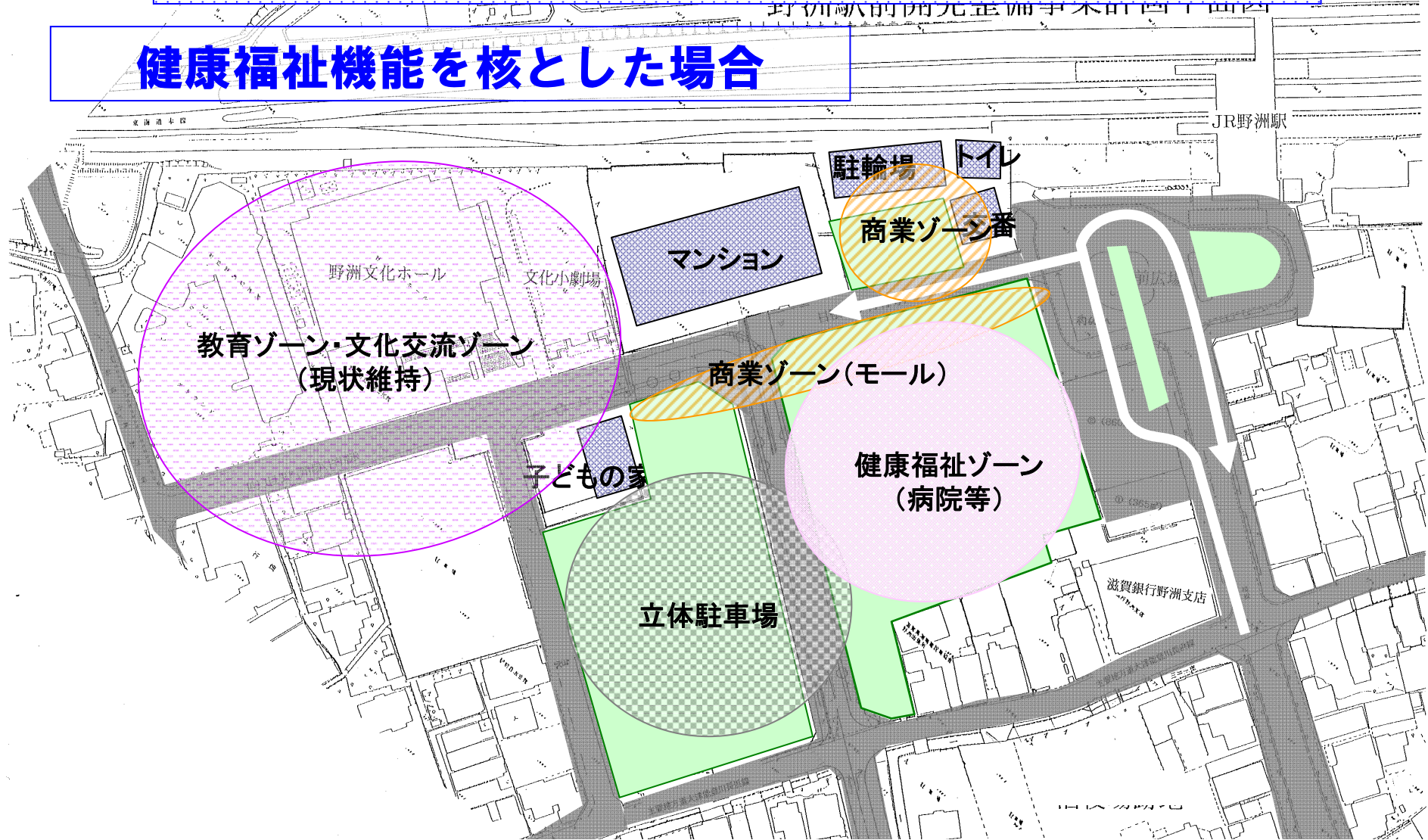
環境機能を核とした場合



※ゾーニングの提案ではなく、イメージをつかんでいただくために示したものです。
イメージ①～④の中から選択するものではありません。

ゾーニングイメージ③

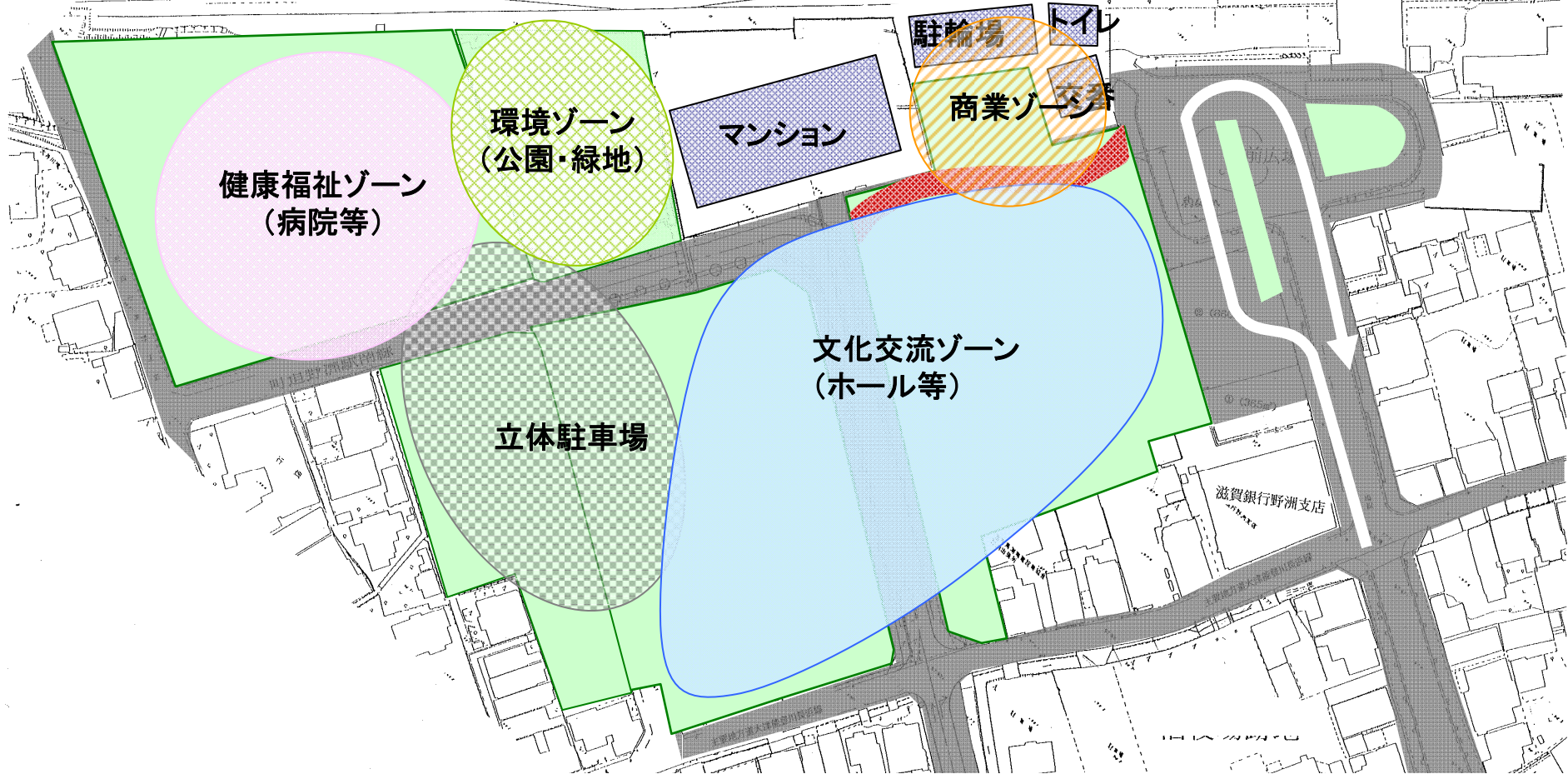
健康福祉機能を核とした場合



※ゾーニングの提案ではなく、イメージをつかんでいただくために示したものです。
イメージ①～④の中から選択するものではありません。

ゾーニングイメージ④

すべての機能を盛り込んだ場合



※ゾーニングの提案ではなく、イメージをつかんでいただくために示したものです。
イメージ①～④の中から選択するものではありません。

検討項目

検討課題

- 市民はどんなまちづくりを望むのか
将来への期待と不安は
- 駅前に求められる都市機能とは
将来を見据えた駅前のイメージは
- どのような機能を市民活動拠点とするのか
ゾーニングイメージから考えられること

事務局連絡先

野洲市政策調整部

企画調整課 地域戦略室

TEL 077-587-6141

FAX 077-586-2200